

平成30年度 学校評価

武蔵越生高等学校

(令和元年6月22日)

目指す学校像	グローバル化した国際社会のなかで良き形成者・リーダーとして心豊かで実践力のある人間を育成する学校。		学校関係者評価は、PTA 役員、後援会役員、同窓会役員、学園評議員からなる学校関係者評価委員会による。
本年度の重点目標	<p>1 学力の向上と進路の保障 学ぶことの大切さ、理解することの喜びを体得させ、生徒の実態にあった指導を研究し、魅力的で実力のつく授業の展開を図る。</p> <p>2 礼儀正しい態度の養成 社会の中の一員としての自覚を持たせ、自分を律していくことで自他の心を大事にする必要性をわからせる。</p> <p>3 クラブ活動の育成強化 生徒の特技や情操を高め、心身の健全な成長を図ると共に、愛校心を育てるためクラブ活動を重視し育成強化していく。</p> <p>4 地域との連携強化 地域の文化の砦としての信頼を得ると共に、積極的に交流を深め、地域の活性化の一躍を担う。</p>		

年度当初				最終評価に向けて				
番号	評価項目	現状	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況等	31年度への課題と改善策	学校関係者評価	
1	生徒個々の知的好奇心を掘り起こし、主体的学習習慣を確立させてより高い学力をつけさせる。	クラス内でも生徒の学力層の幅が広い。特に学力が低く、学習意欲に欠ける生徒の割合も少なくない。一方で学習に興味関心のある生徒に更なる学力向上をしきれずにいる現状がある。	普段の授業や家庭学習の積み重ねから試験で成果を出し、成功体験をつける。そのために、教科会、教科主任会を行う。日誌、指導連絡票、成績単票の調査をし、生徒の実態と改善策を提起する。実力試験の事前指導、事後指導を行う。講座の有用性訴え、効果的な指導をする。授業アンケートの実施。	○定期考査の成績調査より、各科目の成績の統制をする。 ○授業アンケートを通して取組の確認ができたか。 ○英検の合格率を上げることができるか。	5 教科主任、コース検討委員長連絡会を発足し、科会やコース検討委員会で共有すべき課題や提案が活性化しつつある。 単票の定期考査ごとの統計調査を実施し、評定平均は 6.7 であった。赤点者数削減に努めていく。講座の受講生徒数(のべ数)は 1 学期 924 名、夏講座 495 名 2 学期 515 名が受講する。 S特コースで理系・文系に分かれ研究発表を行った。	B	クラブ生徒に対して勉強の方策を練ることが必要である。成功体験をさせるために①授業の充実②家庭学習の定着③赤点者の減少と評定値の適正化④学力アップにつながる進学基礎講座の活用⑤実力テストの結果分析⑥5教科主任会コース検討委員連絡会の継続的活動を継続していく。 ⑦学習施設や学習環境の提供。⑧生徒や保護者との適度な面談。⑨教員研修でブレのない共通認識をもつこともより必要である。	今後、一層英語教育の充実が求められる。英検の合格は追及していくべきである。クラブが活発な中で放課後講座の参加者数が増えたことは評価できる。学力アップに向けての取り組みとして学校全体の雰囲気づくり、全体の意識を変えることでさらなる高みを目指せるのではないかと。継続して努力してほしい。
	生徒個々の適性を見極め、将来有益な人材として活躍できるよう指導する。	多様な進路を目指す生徒がいる。大学の定員充足率の是正により、大学入試が厳しくなっている。	大学入試説明会で得た情報を職員に情報提供する。面接・志望理由書の事前事後指導をする。生徒との面談を通して、多様な学部学科の情報共有、入試に対応する。	○適切な進路情報を提供し、生徒のモチベーションを上げられたか。 ○4 年制大学進学率70%以上を確保できるか。	面談期間を設定することにより、面談が活発になっている。 看護医療系・幼児教育ガイダンスを実施し、生徒の反応は良かった。保護者向けガイダンスを実施した。就職者への指導も実施できた。進路相談希望の生徒は多く、受験校決定に向けた指導ができた。	A	大学入試の多様化、今後も続くであろう中堅以上の大学合格難化もあり、生徒への入試情報提供は今後一層必要である為、アンテナを高く張り、生徒へ伝えることが必要である。PDCAサイクルを意識し、講演会においての事前事後指導の徹底が必要である。	放課後を利用して生徒が積極的に教員に勉強を教わる場面が多くみられ評価できる。今後は保護者及び生徒から進路についての満足度調査も必要ではないか。進路については子供の将来に寄り添うという感覚も必要ではないか。
2	社会の中での自分のおかれている立場を理解し、自分を律する心を育成する。	ここ数年、挨拶のできない生徒が増え、言葉遣いも乱れがちである。身嗜みについて、校外での乱れが目立つ。部室等の清掃が徹底できてない面が目立つ。	面談を通して生徒理解に努める。乗車指導、頭髪服装検査、身嗜みセミナーの実施。教室の清掃状況チェック、部室点検を定期的に行う。交通安全教室の実施。	○全生徒が誰に対しても、積極的に挨拶ができるようになっていくか。	アスリート選抜コースによる挨拶運動を実施しているが全校生徒への徹底は不十分である。 耐震工事の為、遅れたが交通安全教室は実施できた。部室点検の結果は良好であった。登下校の乗車マナーの為、乗車指導を行った。	A	また、クラブでも先輩が模範を見せることで下級生に良い影響を与えることができる。さらに、毎年新しい生徒が入学してくる中で気を抜かず、行っていくしかない。次年度は心理テスト(アイチェック)を導入し、生徒理解に努める。	校内及び校外の問題行動については、すぐに反応することが大切ではないか。
3	生徒の心身を鍛え、特技・特性を伸ばし、集団の一員として行動できるようにさせる。	学校行事では積極的に参加し、取り組むことができている。	運動部集会、クラブ顧問会を増やす。HRを通してリーダーや係などで仕事の責任を持たせる。	○関東大会、全国大会の出場ができたか。 ○体育祭、文化祭を通してクラスの団結を図れたか。	体育祭や文化祭では、2,3年生はまとまっていたが、1年生のクラスはまだ団結できていない様であった。アスリート選抜コースでリーダー育成プログラムを実施した。	A	体育祭実行委員、けやき祭実行委員会を通して、早い段階で企画運営し、上級生のリーダーシップが必要である。	部活動の対外試合の応援を通じて愛校心、帰属意識を高めていることがうかがえる。社会で求められている自律、チーム志向、コミュニケーション能力、自己表現能力をアップさせる取り組みが必要である。
4	父母の期待、地域のニーズを理解し、協同・協力が出来、他人のために行動がとれる心を育てる。	PTA、後援会の連携でできており、学校行事、教育活動の運営に成果を上げている。PTAの組織改革が話題に上がってきている。	保護者の声を聞き、そのニーズに応える。来年に向けて、PTAの組織の新体制を作る。	○保護者の学校への信頼度が高まったか。 ○組織の新体制に向けての準備ができたか。	PTAと後援会で協力してけやき祭に関わることができた。 PTAの支部の廃止に伴い、組織の新体制に向けての案は固まりつつある。保護者の協力により、学校行事の運営と安全面に厚みが出ている。	A	支部が廃止になり、PTA活動に関してスリム化できた。今後スムーズな運営ができるよう検討していきたい。	地域貢献として和太鼓、チア、吹奏楽や野球部、家庭部など貴重な経験を積むことができている。また、PTA・後援会の活動を通じてよい連携をとることが大切である。

達成度 A:ほぼ達成(80%) B:概ね達成(60%程度) C:変化の兆し(40%前後) D:まだ不十分(40%未満)